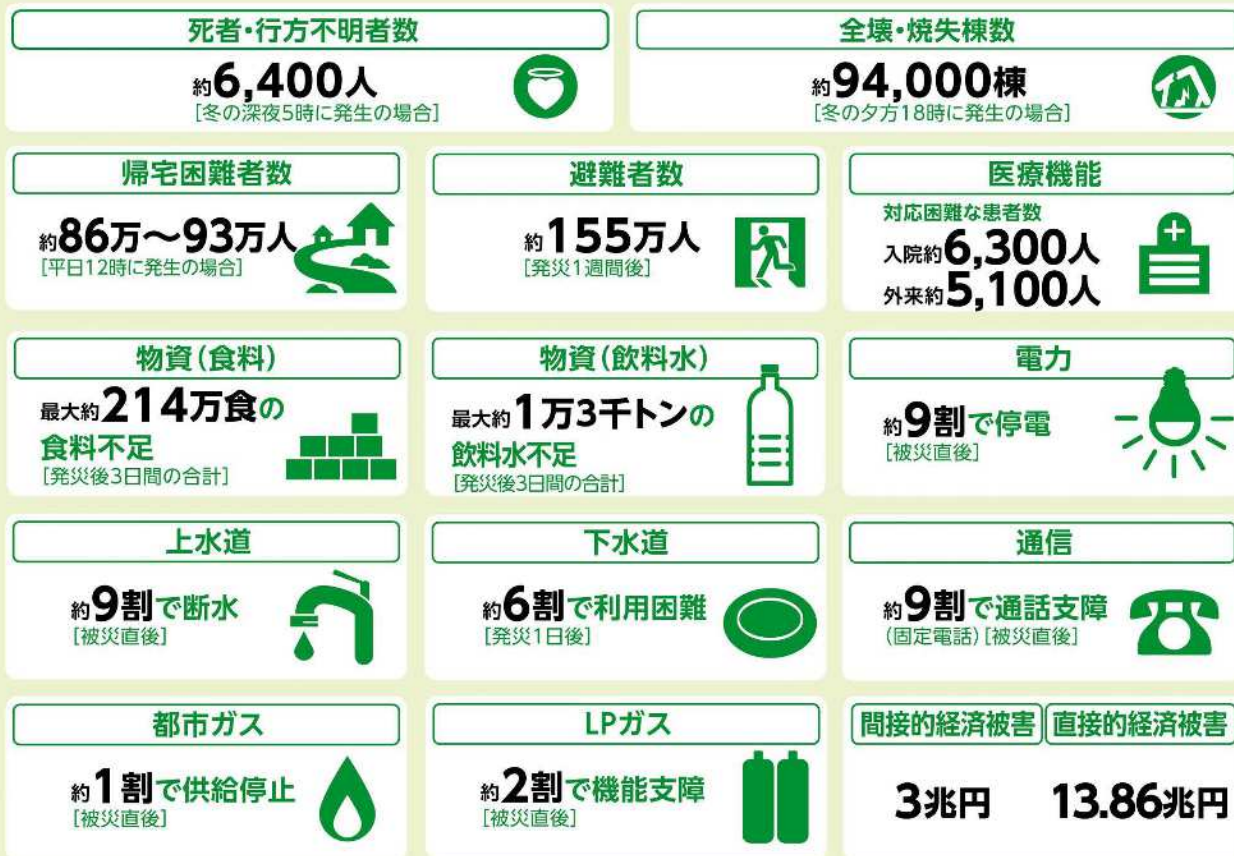


Q もし南海トラフ巨大地震が起こったら？

A 愛知県の被害想定(過去地震最大モデル)



備える！地震編 地震のことを知っておこう！

Q 防災・減災の被害軽減効果とは？

A 家具等の転倒・落下防止対策の実施率を100%、あるいは住宅の耐震化率100%を達成した場合、想定される死者数をいずれも約6～7割減らすことができると考えられています。

家具等の転倒・落下防止対策の効果

	家具等の転倒・落下防止対策強化	
	現状	実施率 100%
死者数(冬・深夜)	約200人	約80人
重傷者数(冬・深夜)	約1,100人	約600人

耐震化の促進による効果

	建物の耐震化の促進	
	現状	耐震化率 100%
地震動による全壊棟数	約47,000棟	約20,000棟
建物倒壊等による死者数(冬・深夜)	約2,400人	約700人

Q ライフラインの復旧はいつ？

A 愛知県では、南海トラフ巨大地震(過去地震最大モデル)が発生した場合のライフライン復旧にかかる期間を次のように想定しています。

ライフライン復旧期間

項目	復旧期間
上水道	6週間程度
下水道	3週間程度
電力	1週間程度
都市ガス	2週間程度
LPガス	1週間程度

注) 復旧期間の算定は、津波等により被災した需要戸数等は復旧対象戸数等から除外し、95%が復旧するのにかかる日数

ライフラインが復旧するまでの期間を過ごすことができる備えを日頃から行おう！





Q 南海トラフ巨大地震が起こったら、岡崎市はどのくらい揺れるの?

A 愛知県では、「過去地震最大モデル」と「理論上最大想定モデル」、2つのモデルから地震被害予測を行っています。これによると、いずれも岡崎市内における**最大震度は7**。また、市域では「東海地震」「南海トラフ巨大地震」の予測される最大震度がいずれも6弱以上とされてきたことから、市の全域が「東海地震に係る地震防災対策強化地域」および「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されています。

過去地震最大モデル

南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、過去実際に発生した5つの地震を参考に想定した、地震・津波対策を進める上で“軸”となるもの

理論上最大想定モデル

「命を守る」という観点から、あらゆる可能性を考慮した、千年に一度、あるいはさらに発生頻度の低い、最大クラスの地震・津波を想定したもの

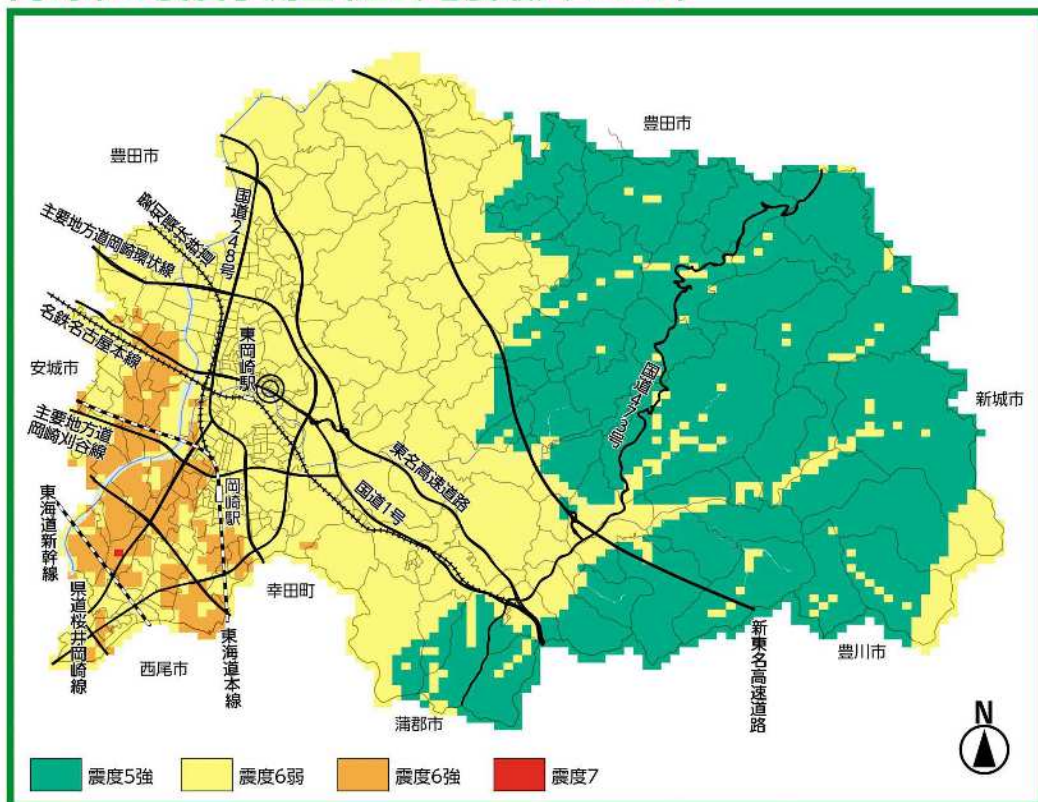


強化地域かつ推進地域(39市町村) 推進地域(15市町村)

Q 岡崎市内の被害想定を教えてください

A 平成26年5月、愛知県(愛知県防災会議地震部会)が発表した調査結果によると、南海トラフ巨大地震が発生した場合、理論上最大想定モデルでは、市域のほとんどが震度5強以上、人的被害(死者数)は最大約700人、全壊・焼失棟数は約16,000棟となっています。あくまでも理論上の数字ですが、こうした災害が起こりうることを想定した上で、日ごろから備えておけば被害も大幅に減らせるはずです。

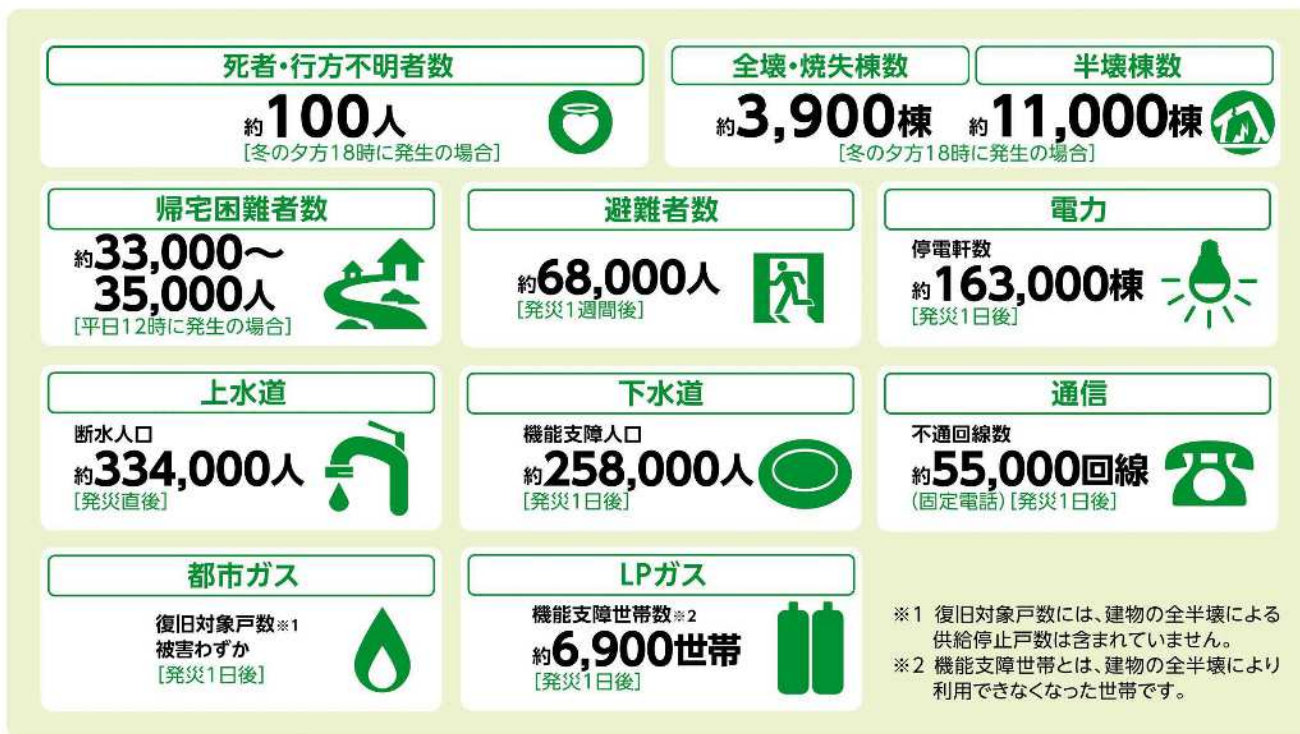
岡崎市の震度予測図(過去地震最大モデル)



震度と揺れの目安

震度4	・照明などが大きく揺れる。 ・置物が倒れることがある。
震度5弱	・大半の人が恐怖をおぼえる。 ・棚の食器や本が落ちることがある。
震度5強	・固定していない家具が倒れる。 ・物につかまらないと歩けない。
震度6弱	・立っていられない。 ・窓ガラスが破損、ドアが開かなくなることもある。
震度6強	・耐震性の低い木造建物の多くが倒れる。 ・大きな地割れが生じることもある。
震度7	・耐震性の低い鉄筋コンクリートの建物が倒壊する。

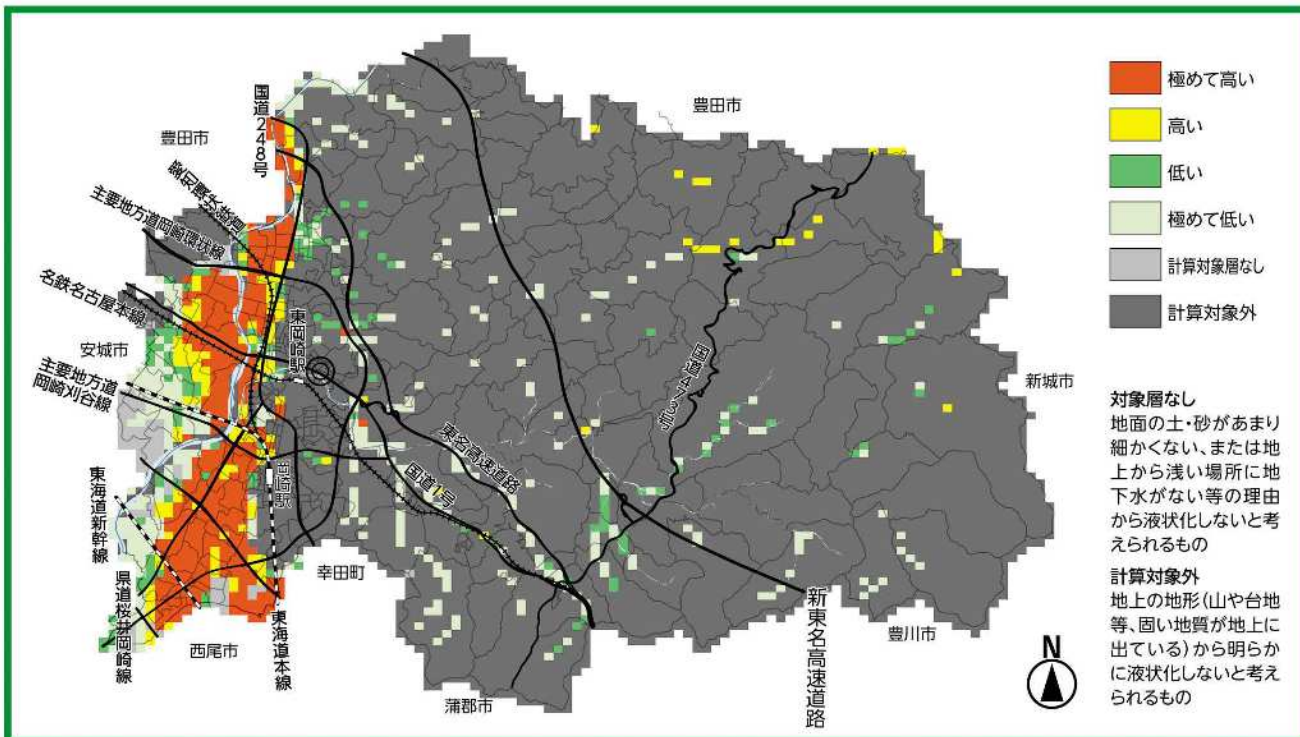
岡崎市の被害予測(南海トラフ巨大地震発生時・過去地震最大モデル)



岡崎市の液状化危険度予測図(過去地震最大モデル)

液状化

液状化とは、低地や埋立地など、もともと水分を多く含んでいる地盤に地震による激しい振動が加わると、土・砂・水が分離し、泥水が地表に噴き出して地盤が一時、液状になることです。地盤沈下や建築物の傾き・転倒などの被害が発生します。



被害想定(震度予測・液状化危険度)を「岡崎市わが街ガイド」のハザードマップページにて公開しています。

<https://www2.wagmap.jp/okazakicity/>

